

栄光

『収穫の時』

説教

イザヤ書55章8節～11節

ヨハネによる福音書4章27節～38節

松谷祐二

説教・「収穫の時」	松谷祐二牧師…1
特集・あの時は ありがとう……	2
二十歳の 祝福式報告……	4
餅つき報告……	4
「平和を祈る音楽 礼拝」報告……	5
長老のファイル…	5
牧師の寄り道…	6

イエス様の言葉を聞いて「メシ

アに出会った」と信じたサマリア

の女性。町へ飛んで帰ってこの話

をしますと、人々は町を出て、イ

エス様のもとへ向かいました。

弟子たちが買い物から帰ってき

て、先生に食事を勧めると、イエ

ス様は「私には、あなたがたの知

らない食べ物がある」(ヨハネ32節)

と言われます。「私の食べ物とは、

父の御心を行い、神の業(わざ)

を成し遂げることだ。それが私の

生きるすべてだ」という意味です。

イエス様は、サマリアの女性の心

に、「ご自身への信仰を生じさせま

した。さらにこの後、町の人々に

も神の言葉を語ろうとされていま

す。その仕事がまさしく、父の御

心を行うこと、神の業、イエス様

の食べ物なりました。

イエス様はまた、その仕事を「収

穫」にたとえて弟子たちに話され

ます。「目を上げて畑を見るがよい。

すでに色づいて刈り入れを待つて

いる。刈り入れる人は報酬を受け、

永遠の命に至る実を集めている」

(35～36節)。

刈り入れる人とはイエス様ご自

身、「永遠の命に至る実」とはイ

エス様を信じる人のことです。神

様が種を蒔き、イエス様が刈り取

り、「蒔く人も刈る人も共に喜ぶ」

(35～36節)。イエス様は弟子たち

また私たちに言われます。「今は

収穫の時だと知りなさい。私にも

う刈り入れを始めた。あなたがた

も加わりなさい。ぜひ、父と一緒に、

私と一緒に喜ぼう」。

イエス様が「収穫」にたとえら

れた仕事を、今日では「伝道」と

呼びます。「今は伝道の時だ」と

いうことです。ただし、イエス様

が言われたのは、年間行事として

の伝道集会のことでも、「今の時

世は伝道に適している」というこ

とでもありません。「私が来たか

らこそ、今がその時だ」というこ

とです。イエス様が神様のもとか

ら世に来られ、神様のことをすべ

て教え、十字架・復活・昇天・聖

霊の注ぎという神の業を、ついに

成し遂げてくださいました。この

事実のゆえに、そこから後は千年

でも万年でも、私たちの毎日のす

べてが「収穫の時」なのです。

私たちが毎日毎日、ノルマとし

て誰かを勧誘しなければ、という

話でもありません。「私は、あなた

がたを遣わして、あなたがたが自

分で労苦しなかつたものを刈り取

らせた。ほかの人々が労苦し、あ

なたがたはその労苦の実りにあず

かっている」(38節)、とイエス様

は言われます。私たちが何もかも

自分たちで労苦し、労苦した分だ

け自分たちで刈り取るのではあり

ません。「ほかの人々」がまず労苦

したのです。父なる神様が。旧約

聖書に描かれている先祖たちや預

言者たちが、あのヨハネが。今日

の私たちにとっては何よりも、イ

エス様ご自身の絶大な労苦があり

ます。それとは比べるべくもあり

ませんが、私たちが以前のクリスチ

ヤンたち、世々の教会の先人たち

の労苦があります。それらの労苦

の実りとして、イエス・キリスト

を信じる人が新たに生まれます。

私たちもそうでした。

自分たちで実りを生み出せ、と

は命じられていません。父なる神

様が種を蒔かれしました。「永遠の命

に至る実」は、いつも御手によっ

て育てられており、いつでも実り

つつあります。私たちがそれに気

がつかないだけなのです。私たち

自身にも労苦はありますし、経験

上は、大抵うまく行きません。し

かし神様はそれらの労苦をも、私

たちの知らない所で役立ててくだ

さる方です。

神様の恵みによって用意されて

いる大いなる収穫。そのために、

イエス様は私たちを遣わしてくだ

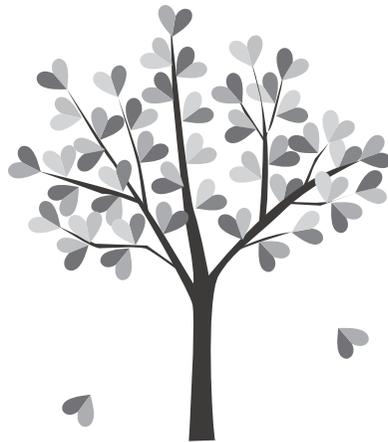
さっています。今は収穫の時、伝

道の時です。

(2月1日)

あの時はありがとう

誰かに伝えたかった感謝の気持ちや
ありがとうと言ったけれど
伝えきれなかったこと、など
感謝にまつわるエピソードを教えてください。



あの時は、ありがとう。

高山宇佳

最近、仕事でひどく叱られた。叱られることが好きな人はあまりいないだろうし、叱られて喜ぶ人も多くはないと思う。むしろ、叱られたことを不快に思ったりさえるするだろう。しかし、その後何かのきっかけで気付いたのだが、あの時叱られていなければ、その後に更に大きな失敗をする所だったのだ。逆にいえば、叱ってくれたおかげで、その後の大きな失敗を免れたのである。まさに、一命をとりとめたような感覚すらある。叱ってくれた人も、自分より年配だったから長年の経験から、そのことがきつとわかっていただろう。最近では、自分の考えが正しいと考える人が多いが、それは傲慢だったのではないだろうか。

聖書では、傲慢について非常に厳しく書かれている。ヤコブの手紙4章、「神は高慢な者を退け、謙遜な者に恵みをお与えになる」。イヤヤ書には「傲慢な者とおごる金持ちとを踏みつぶす」。箴言に「高ぶり（傲慢）は滅びにさきだち、誇る心は倒れにさきだつ」。マタイの福音書にも「高慢の鼻をへし折られてしまい、一方、自分から身を低くする者は、かえって高く上げられるのです」。伝道者の書にも「忍耐は高慢にまさっている」。その時に、ふとウサギとカメの話思い出した。ウサギはカメより早く走れるはずだったのに、結局カメに負けてしまった。まさに傲慢だったのだ。そうなると、叱ってくれたことに感謝の気持ちすら芽ばえる。まさに「叱ってくれてありがとう」である。叱る方も実は結構、労力がかかる。見て見ぬフリをしていた方が実はだいたいぶラクなのである。裸の王様に一言「あなた裸ですよ」と伝えるのは面倒くさいことなのである。裸の王様が裸でいても、自分に害がなければそれでいい。そのように放置されてきた「傲慢」が実は数多く存在する。本当は、それに気付かせてくれた人や叱ってくれた人に感謝するべきだったのかもしれない。傲慢とは、実に恐ろしい。

積み重ねた時間に ありがとう

高嶋明子

「ありがとう」と誰かに向けて書こうとして立ち止まった自分がいる。感謝したい人はたくさん思い浮かぶ。日々の中でありがとうを口にしていく（言えてなかったこともあるかもしれないが）。

それでもこの原稿に向かった時、最初に浮かんだ相手は「音楽」だった。私はバイオリンというツールで、ただの趣味にすぎないけれど、長年音楽を嗜んできた。

上手く弾けた記憶より、上手く弾けず、立ち尽くした時間の方がずっと長い。若い頃と違い、指の動きは衰え、早いパッセージに苦戦し、理解には時間がかかり、昨日出来たことが今日には出来なくなる。それでも音楽は私を急かさず責めもせず、ただそこにあり続けた。

それは一本ずつ糸を通し、布を織る作業のようで、私が奏でてい

ると分かる音は、聴衆には届かずともオーケストラの響きの中で確かに一部を担っている。

喝采や記録とは違うところで続けてきた時間がある。何者でもない、ごく普通の一人として積み重ねた日々がある。弾けなくなったり時間がある。肩の痛みで生活さまままならなかった日々も、痛みが理解されず理不尽さに飲み込まれた時間もあつた。大切な存在を失った時間にも音楽はそばにあつた。マラーやバッハの楽曲は深い悲しみに寄り添ってくれた。

それらも人生の一部として、今は一枚のタペストリーに織り込まれている気がする。

少々の痛みも伴いながらも、2年ぶりに楽器を再開し、譜面に並ぶ一つひとつの音符を追い、私は今日も弾いている。

ありがとうと言うなら派手な成功よりも、積み重ねた静かな日々に向けて言いたい。

そして音楽を奏するための素地を作ってくれた父と母に、ありがとうと言いたい。

忘れられない心遣い

小川徳子

高校生の時、定期入れを無くしてしまったことがありました。通学バッグの外ポケットに定期入れを入れて自転車前のカゴに入れていて、家に帰り着いて無くしたことに気づき、最寄り駅から自転車で帰っている時に落としてしまったのではと思い、探しに行きましたが、見つかりませんでした。学生証も入っていたので、どうしようという気持ちと、この世の終わりだ…と思うくらい不安な気持ちに襲われました。

翌日、不安な気持ちを抱えたまま登校しました。うわの空で下校まで過ごし帰宅したら、何と無くしたのはずの定期入れが、家に届けられていました。私の定期入れを見つけて拾ってくれた中学生の女の子が、お友達と一緒に私の家まで届けに来てくれたのです。応対してくれた母の話では、その中学生の女の子は、落した人が困って

いると思い、学生証に書かれていた住所を見て、友達と一緒に届けに来た、とのことでした。

定期入れが、無事に見つかったこともホッとして嬉しかったのですが、それ以上に、見ず知らずの私のために、困っていると思いい、わざわざ家まで届けに来てくれたこと、そして、その気持ちがとても嬉しく、何十年も経った今でも私の心の中に残っています。

その女の子が制服を着て届けにきてくれたので、私の卒業した中学校ということがわかりました。妹がその中学校に在学中だったこと、母が女の子の名前を聞いていてくれたこともあり、中学校の名簿で連絡先がわかりました。直接お礼を伝えたくて電話をしました。おそらく、突然の電話に驚き、とまどったのでは、と思います。ちゃんと感謝の気持ちが伝えられていたらいいな、と思っています。

周囲の思いやり、家族・親友に支えられている日々、いつも共にいてくださる神様に感謝です。

二十歳の祝福式報告

抱負と感謝

持田一樹

まず、「二十歳の祝福式」を行っていただきありがとうございます。経堂北教会を訪れるのはおよそ十年ぶりでしたが、皆様に温かく迎え入れていただけて嬉しく思っています。

2022年より成人の年齢が18歳に引き下げられたことにより、20歳という年齢が持つ節目としての意味は以前よりも薄くなっていると思われまふ。しかしながら、今回の「二十歳の祝福式」は20歳が重要な節目であることを再認識し、自分自身について振り返る良い機会となりました。

これまでの生活を振り返り、自身の行動は受動的なものが多くことに気がつきまふ。しかしAIなどが発達し、様々な場所で導入される現在、「自分で考えて行動できる人材」が重要となります。そのため、「自分の考えを持ち、能動的に行動すること」を、これからの抱負としていきたいと思ひまふ。

私は現在、大学に通っており、化学を専攻しています。大学に入学する前は、単に科目として化学が好きであるという理由で学科を選択しました。一方で、今では目標とする職種の方性がある程度決まっております。製薬に関する研究職に就きたいと考えています。研究職に就くためには、知識だけでなく、思考力や実験技術などの研究に関するスキルも必要となるため、大学院に進学しようと思ひまふ。私が通う大学では、成績順に研究室を選択することができると、より良い成績をとることを当面の目標とします。

無事20歳を迎えることができたのは、周囲の方々の支えがあったためです。そこで、最後に改めて、周囲の方々の支えと「二十歳の祝福式」を行ってくださったことについて感謝を申し上げます。

餅つき報告

2月15日。前週の雪とは対極の暖かい日に、6年ぶりの餅つきが開催されました。

2020年2月2日の餅つきには、就任初年度の狩野伝道師（当時）も右往左往しながら参加されていました。まさかその翌日に横浜に寄港したダイヤモンド・プリンセス号から、新型コロナウイルス感染者が相次ぎ、4月に緊急事態宣言の発出に至るとは。教会での飲食提供も、この餅つき以来長らくできずになりましたが、教会学校の納涼会やミニバーザーで徐々に解禁され、ついに今回、餅つきも開催できました。

この6年の間に教会学校の出席者も減り、教会の高齢化は一層進み、果たして出席者が集まるのか不安もありました。ただ、石室校

長の並々ならぬ情熱もあり、約20人の参加者が与えられました。働き手が少数でも、皆がキビキビ動き、ブランクを感じさせない、いつもの餅つきでした。台所で蒸し上がった餅米を、中庭の杵と臼でテンポよく搗ぎ、計6キロ分の餅が振る舞われました。子どもたちも率先して搗き手を担ってくれて、中庭は終始賑やかでした。

肝心の餅も柔らかく味も言うことなし。餅はやはり搗き立てに限ります。教会の食卓はイエス様を囲む食卓です。神様の恵みを皆で分かち合えたことに感謝しつつ、来年の実施を楽しみに待ちまふ。「見よ、私は戸口に立って扉を叩いている。もし誰かが、私の声を聞いて扉を開くならば、私は中に入つて、その人と共に食事をし、彼もまた私と共に食事をするであらう。」（ヨハネの黙示録3・20）

(原 良介)

「平和を祈る音楽礼拝」に出席して

経堂北教会が所属する西南支区には、東京教区の5支区のうちで唯一、音楽部があります。その音楽部主催の「平和を祈る音楽礼拝」が、2月15日午後12時に霊南坂教会にて行われました。105名（当教会から4名）が出席しました。

「平和を祈る音楽礼拝」のポスター。中央には「平和を祈る音楽礼拝」とあり、右上には「2/15 2025 (日)」と「14:00 開始 14:30 霊南坂教会礼拝堂」と記載されている。下部には「4つの祈りの柱」として、1. 教会の聖歌隊単体で奉唱、2. 個人やご友人と音楽隊聖歌隊に参加し奉唱、3. 礼拝に参列し、会衆として賛美と祈る、4. 賛美歌集と今まで触れたことのない様々な賛美歌16曲を歌い合わせたオルガンを使用し分け、音楽家の青戸知さん、山田裕美子さんの独唱が力強く礼拝堂に響き渡りました。

世界では、戦争・紛争は終結が見えず、沢山の人の命が奪われ続けています。日本では排外的なヘイトスピーチなど、社会の分断がすすんでいます。そんな中、小さな力でも集まって平和を祈る力強い賛美を捧げようと、有志の6教会（青山、広尾、霊南坂、経堂、緑岡、中渋谷、松沢）の聖歌隊と、この日のために作られた西南支区聖歌隊が奉唱し、会衆と共に賛美を捧げました。

「平和の祈り」、「キリストによる和解」、「平和を生きる」、「平和の使者となる」を祈りの柱とし、讃美歌21をはじめ、日本賛美歌学会、日本聖公会聖歌集、アイオナ

共同体的賛美歌集、カール・P・ダウ「賛美歌集」と今まで触れたことのない様々な賛美歌16曲を歌いました。音楽の飯靖子さんは曲に合わせてオルガンを使用し分け、音楽家の青戸知さん、山田裕美子さんの独唱が力強く礼拝堂に響き渡りました。

音楽礼拝は3回目とのことですが、音楽部の方は著作権許諾の続きや事前準備でご苦労されたと思います。婦人部から懇親会用の菓子も提供され、奉仕された皆様に感謝です。（酒井由紀子）



長老のファイル

2月の長老会には多くの修繕の議題が出た。ライブ配信用のFDの購入、1階のスピーカーの不具合、礼拝堂のフロアタイル改修、正面玄関の段差による転倒防止策…。予算も限られている中、経年劣化の営繕は喫緊の課題である。

先月の「長老のファイル」をお読みいただいた方は、財務の奉仕が多岐にわたっていることにお気づきいただけたことと思う。前任の牧師一人の力に頼り過ぎていたのも問題の一つだ。それは、他の委員会などの奉仕にも同じことが言える。誰か一人に頼り過ぎていないかを考える時なのだ。

先日、バザーについて振り返りの委員会が行われた。その中で、かつてバザーの楽しみであったドライカレーの話になり、どうしても再現して食べなくなった私は、ルデヤ会秘伝のレシピを譲ってもらい、自宅でチャツネを手作りするところから、かつてのドライカレーに挑戦した。仕事から帰宅して2時間半後にやっと完成した

カレーは確かに当時バザーで働いて疲れた身体と心に染み渡っていたあの懐かしいドライカレーだった。達成感で嬉しい気持ちと同時に、普段の夕食ではありえない程の工程があるカレーを作ってくださっていた当時のルデヤ会の皆さんに対して、感謝の気持ちと、頼りつきりだった反省の気持ちで一杯で、頭が下がる思いだった。そして、これは大勢で協力して作る食べ物なのだ！と実感した。

先日開催されたCSの餅つきしかり。皆で協力し分かち合う。声を掛け合い笑顔で奉仕にあたる。それは誰のために？ 全ては神様のために。奉仕にあたる私たちは確実に歳をとり、働くことがしんどくなってきた。仕事もある、家庭もある。そして後継者を育てていくことも急務だ。しかし悲しみ過ぎず、眉間に皺を寄せず奉仕に当たっていれば、見ている子どもたちは「なんだか楽しそう」と思うだろう。それは私たちの人生の楽しみにもなる。頼るべきは神様。祈りつつ「在り主」という言葉を心に留めて、笑顔で声を掛け合って進みたい。（牧内美和）

牧師の寄り道

経堂北教会を含む近隣の7教会（あと6つは経堂緑岡、桜ヶ丘、千歳船橋、松沢、祖師谷、千歳丘）は「もより教会」として牧師同士が交わりを持つている。それぞれの教会で牧師が交代しても、この交わりは引き継がれてきた。いつから始まった会なのか、なぜこれらの教会で構成されるのか、現在メンバーである牧師の誰も確かなことは知らない（西南支区内の地

域の集まりでもない——桜ヶ丘教会は西東京教区である）。昔、仲の良い牧師同士で自発的に始めたのかもしれない。それでも、会としては十分成り立っている。

牧師会は年に数回程度、各教会を会場として開催され、発題者を立てて一緒に勉強したり、情報交換や歓談をしたりしている。この会の雰囲気は、和やかでとても良い。「勉強」と聞くと大変そうだが、学問的に高度である必要はなく、牧師の仕事の実際に即した内容が多いので、参考になる。

2月初めの牧師会では、発題者の先生が昨年のクリスマス礼拝でした説教を実際に語ってくださり、参加した牧師たちも、クリスマスにどんな説教をしたか、この

クリスマスにどんな恵みを得たか、気づきがあったか、などをそれぞれ話して、互いに分かち合った。牧師同士だからこそ分かる悩みや感情というものもある。そうしたことを率直に語り合える交流りは、本当にありがたいと思う。この「もより教会」共催の「受難週合同礼拝」が今年も行われる（4

月2日（木）午後7時、松沢教会にて）。昨年は着任後間もない私が説教を仰せつかったが、今回は聴く側で参加できるのが楽しみだ。

もう一つ、世田谷区のカトリック、聖公会、福音系諸派、日本基督教団の諸教会が2年に一度、一緒に行う「世田谷地区キリスト教一致祈祷会」も準備中だ（次回は5月31日（日）午後3時、東京聖三一教会にて開催予定）。その実行委員会も、司祭や他教派の信徒と実際に会って話せる貴重な機会。大事にしたい。（松谷祐二）

個人消息



掲示板



- 西南支区総会
3月8日（日）午後2：00～4：00 中渋谷教会
- 聖歌隊総会 3月15日（日）礼拝後
- 西南支区教会フェスティバル
3月20日（金・祝）午前10：30～午後3：30
聖ヶ丘教会
- ルデヤ会総会 3月22日（日）礼拝後
- ハッピーアワー 3月29日（日）礼拝後

編集後記



▽栄光編集をしているPCが新しくなりました。サクサク動くのは快適なのですが、作業用にカスタマイズしていた設定の一つひとつやり直さなければなりません。しかも設定方法もすっかり忘れてしまっていて、こんなところでも年齢を感じてしまいました（笑）（尾崎）

「栄 光」2026年3月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧師：松谷祐二
編集：栄光編集委員会
Email：church@kyodokita.com
HP：http://www.kyodokita.com